

# 活動報告書

報告日付:2020年3月20日

事業ID:2017454357

事業名:埼玉県戸田市における第三の  
居場所の運営(3年目)

団体名:Learning for All

事業完了日:2019年3月31日

## 1.事業内容

第三の居場所の運営(3年目)

(1)期間:2018年4月~2019年3月

(2)場所:埼玉県戸田市

(3)内容:「第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完するため、拠点には専門スタッフを配置し、子ども達の生活習慣形成や非認知能力・学習意欲向上を図る。

## 2.事業内容詳細:

対象学校の児童生徒に放課後から夜21時までの間、安心して安全に過ごすことのできる居場所を提供し、宿題の補助や読み聞かせ、体験プログラムによって学習支援を行いながら、ニーズに応じて食事を提供し、歯磨き、入浴に関する生活習慣の形成をサポートした。また、学校や行政等各種関係団体とのケース会議に参加した他、保護者への相談援助業務を行うことによって子ども達が安心して過ごせる「第三の居場所」外における育成環境の醸成にも寄与した。

## 3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

- 1.拠点利用児童の募集
- 2.児童への居場所・読み聞かせ、学習支援・食事の提供
- 3.保護者、地域、行政との関係構築
- 4.全国展開に耐える事業モデルの構築

【目標の達成状況】

1.行政と協力して拠点利用児童の募集を行った。保護者同士の口コミによる入所希望等も何件かあったり、兄弟の登録も多かったりと最終的に17名の児童登録であった。引き続き行政や学校、地域と連携し、必要な世帯へはアウトリーチの実施を行った。

2.昨年度以上に個別支援に世帯を含めた特化した。学校との連携も強化し、宿題内容の調整や不登校気味の児童に対する対応を協議するなど、個別課題を関係機関と連携して解決へ向けたアクションを実施した。結果的に、不登校気味だった児童が、放課後に拠点に来ることを楽しみに、学校に通うようになり、また学校の先生へ自ら宿題を出してほしいとお願いするまでになった。

それぞれの児童が、自身の強みを生かした企画を実施する機会を設ける、週に1回、拠点のルールやイベントの相談をする子ども会議を行う、自身の作品等を自慢する大会を行うなど、個別だけでなく、集団でのコミュニケーション機会も積極的に創出した。児童同士が認め合う環境作りをしたことで、大きく仲間への態度が変化した児童もいた。

3.下記の通り、それぞれの関係を強化した。

- 保護者との関係性:学校の保護者面談への同席をお願いされるなど、拠点でのコミュニケーション以外の部分でも頼ってくださる保護者が非常に多くなった。また、今年度は、スタッフと保護者の関係だけではなく、保護者同士の関係性構築に注力した。季節のイベントで保護者に役割をお願いし、保護者同士の協力が生まれるようにしたり、外国籍の保護者に母国の料理を振舞ってもらい、会話のきっかけを作ったりした。その結果、お迎え時に保護者同士がコミュニケーションをとることが非常に増えた。
- 地域との関係性:引き続き、地域のイベント等に積極的に参加し、関係性を構築し続けている。結果的に、町会の皆さんから、寄付をいただくことも増え、また木工工作や昔遊びなどを教えてくださる方も増えた。児童と地域の高齢者の方の交流の場面も多くなった。
- 行政との関係性:定期的な情報共有は継続して実施。必要な世帯については、年間を通してケースカンファレンスを開催し、定期的に情報共有、役割分担を実施して児童の安全な生活環境の見守り体勢を構築した。

4.全国展開のナレッジとなるようなアクションを、ナレッジとしてまとめ始めた。日々の記録はもちろん、1つ1つのコンテンツやイベント等の振り返りもしっかりと記録に残している。また、日々行っている小さなアクションについても目的や行動を言語化し、再現性のあるものになるように意識した。